

3/17

mon

13:00—13:15 趣旨説明

13:15—14:15 1

14:15—15:15 2

休憩

15:30—16:30 3

16:30—17:30 4

17:30—18:30 5

3/18

tue

9:00—10:00 6

10:00—11:00 7

休憩

11:15—12:15 8

12:15—13:00 総括

主催 ● 科研費「問-帝国史」研究の理論と実践—開かれた研究枠組みの構築に向けて」(基盤研究B)

共催 ● 同志社大学人文科学研究所・第13研究「移民・多文化共生・歴史認識の現在—植民地研究との融合に向けて」

● 同志社大学中核的研究拠点・「問-帝国史」研究センター

お問い合わせ先: 水谷(smizutan@mail.doshisha.ac.jp)

公開ワークショップ

トランスインペリアル・ ヒストリー

植民地主義への新たな視座

▷日時 2025年

3月17日月・18日火

13:00—17:00 9:00—12:00

▷場所

同志社大学
烏丸キャンパス志高館
SK110

1

〔ラウンド・テーブル〕

「ダニエル・ヘディングー、ナディン・ヘー
「トランスインペリアル・ヒストリー：連関、協
力、競争」(2018年)をめぐって」
(ゲスト：ダニエル・ヘディングー、ナディン・
ヘー(ともにライブチヒ大学))

2018年に刊行されたDaniel Hedinger and Nadin Heé,
‘Transimperial History: Connectivity, Cooperation and
Competition’, *Journal of Modern European History* 16, no.
4 (2018): 429–52は、分野としてのトランスインペリアル・ヒ
ストリーの立ち上げのきっかけとなった最重要文献であるが、
翻訳され、本書の一章として掲載されることになった。このラウ
ンド・テーブルでは、著者のふたりを交えた鼎談のかたちで、
TIHの理論的課題について理解を深める。

2

鶴見太郎(東京大学)

「3つの帝国のはざまで——シオニズムとロ
シア・オスマン・イギリスの国際政治」

シオニズムをユダヤ人のナショナリズムと位置づけ、超歴史的
な迫害のなかから立ち上がる運動として描くのも、漠然と
ヨーロッパ植民地主義や国民国家体系発展史の関数として位
置づけるのでもなく、3つの帝国がマイノリティと対峙した歴
史としてシオニズムを捉えることで、その具体的特徴のみなら
ず、忘れられた歴史の諸相が浮かび上がる。とりわけ、「民族」
が国際化した20世紀前半という時期に光を当て、なぜパレス
チナという地において「民族対立」という形式の紛争が泥沼化
したのかを、その始まりから解きほぐしていく。

3

役重善洋(同志社大学)

「15年戦争期の日本における反ユダヤ主義
とジェンタイル・シオニズム」

本報告では、15年戦争期、全体主義化が進む日本の中で反ユ
ダヤ主義とシオニズムとが、一部の軍部や官僚、宗教者におい
て頻繁に言及されていたことに注目し、それらのイデオロギー
的背景と政治的文脈について分析する。

4

駒込武(京都大学)

「台湾と沖縄—帝国の狭間からの問い」

東アジア近代世界において、台湾と沖縄は、日米と中国という
大国の狭間で、帰属の変更を何度も経験させられてきた。今日
の状況を見れば沖縄の人々を脅かすのは日米であり、台湾を
威嚇するのは中国であるという地政学的な位置の違いがある
ものの、むしろ大国の手駒とされてきた歴史の共通性に注目す
べきではないか。そうした観点から、「台湾出兵」「琉球処分」以
来の150年の歴史を省みる。

5

増淵あさ子(同志社大学)

「日米帝国のはざまで —沖縄移民女性たち
の沖縄救済運動—」

第二次大戦後、戦禍に見舞われた沖縄を救援すべく、世界各
地の沖縄移民によって繰り広げられた沖縄救済運動。日米両
帝国の間(はざま)にとどめ置かれたハワイの沖縄移民は、郷土
復興にどのような思いを託していたのか。募金活動や救援物資
収集活動において大きな役割担っていた婦人会活動(レプタ
会)に特に焦点をあて、救済運動を、軍事主義、冷戦政治、ジェ
ンダー・ポリティクスが輻輳する場として分析を試みる。

6

水谷智(同志社大学)

「トランスインペリアル・ヒストリーからみた
反植民地主義—インドと朝鮮の事例から」

本報告では、トランスインペリアル・ヒストリーの観点から反
植民地主義の歴史をどのように描くことができるのかを論じ
る。そのために、インド人の独立運動家が、特に朝鮮におけ
る反植民地主義との関連において、どのように日本帝国とわか
わったのかについてを事例研究としてとりあげる。

7

中尾沙季子(中央大学)

「帝国主義と反帝国主義の間——パン・ア
フリカ主義的連帯とはなにか」

本報告では、パン・アフリカ主義というトランスインペリアル
な連帯の内部に存在する反帝国主義と帝国主義の両義的
性格について検証する。事例研究として、アフリカにルーツ
をもつ解放奴隷たちのアフリカ大陸への「帰還」運動の西ア
フリカにおける展開をとりあげる。

8

山田智輝(バーミンガム大学)

「トランスインペリアルな請願運動と出版
文化——第一次世界大戦後のトーゴ分割
とフランス委任統治をめぐって」

本報告では、第一次世界大戦直後の英仏による旧独領トー
ゴの分割およびフランス委任統治をめぐり、トーゴ人の請願
運動について、英領西アフリカの出版文化との関係に着目し
ながら論じる。それにより、西アフリカにおける被統治者間
のトランスインペリアルな連帯・影響関係を明らかにする。